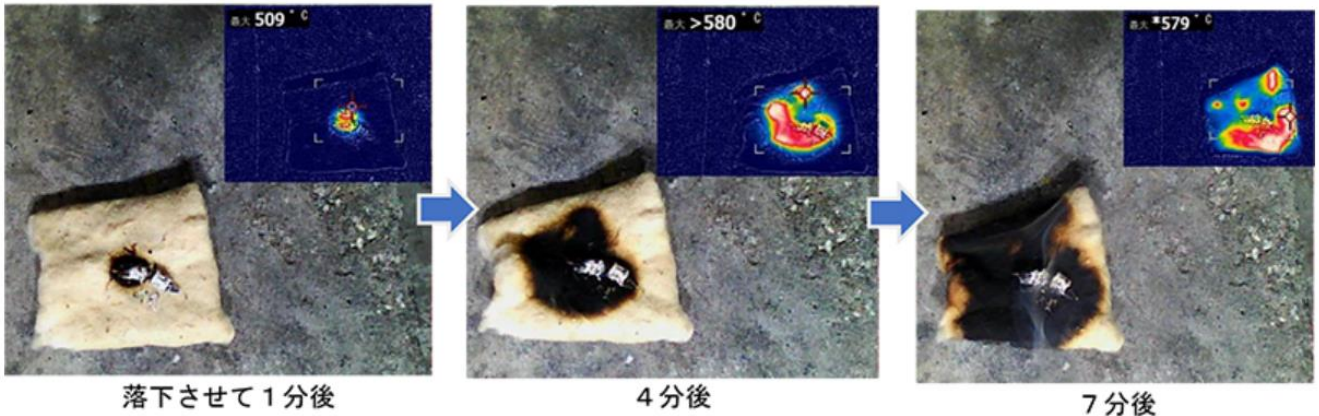


週刊 タバコの正体

火事の原因が明らかなものの中で一位は毎年タバコですが、タバコの火からは炎がでていないので“燃えている”実感がなく、どのようにして火事になるのかイメージできないかも知れません。

そこで、“燃えていないけど、火はついていて”タバコが火事をおこす様子を以下に紹介します。

綿上に紙巻タバコの火種を落下



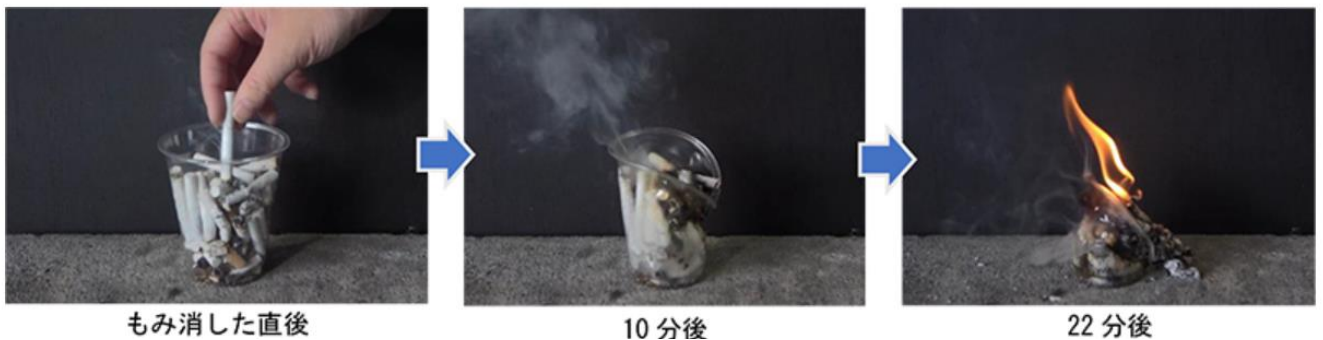
落下させて1分後

4分後

7分後

東京消防庁 HP から

プラスチック製コップにで吸い殻をもみ消す



もみ消した直後

10分後

22分後

捨ててからしばらくすると白煙が発生



燃えていることに
気づきにくい！

消火が不十分なタバコをゴミ箱に捨てる実験

白い煙が大量に発生しています

さらに時間が経過してから出火



ゴミ箱から炎が上がりました

川崎市 HP「消防局からのお知らせ」サイトから

一番上の写真は、タバコの火が残る灰が綿布の落ちた様子です。綿布はゆっくり焦げだします。次の写真は、完全に消しきれていないタバコを吸い殻の中に放置すると、22分後には炎を出して燃えてしまいます。このように、タバコの火はすぐに燃え移らないので、燃えていることに気づきにくいのです。だからこそ、タバコの火は慎重に、かつ確実に消火する事を徹底しなければいけません。

こんな気を使いながら自身の健康を害するタバコを吸い続ける必要なんてないですよ。だから、タバコに手をだしてはいけません。